

## ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（調査分析）

（実施期間：令和3～4年度）

代表機関：九州大学（総括責任者：石橋 達朗）

共同実施機関：東京工業大学

## 取組の概要

- ・申請代表機関である九州大学は、女性研究者改革加速事業により採用した女性枠採用教員の活躍を論文業績データ解析によって可視化することで、国内外に大きなインパクトを与えた。さらにダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業（特色型及び先端型）では、大学および大学部局が抱える人事選考と採用後の育成に関する問題点を定量的データとしてまとめつつある。本調査分析事業では、これらの定量解析データをもとに海外トップ大学との情報交換/調査研究を進めることで、女性研究者の活躍促進を阻む問題点を明確にし、その抜本的解決策を導き出す。
- ・東京工業大学との連携では、総合大学理工系部局と理工系総合大学との比較から、STEMM分野の次世代女性育成の問題について整理するとともに、海外トップ大学での調査研究を総合大学（九州大学）と理工系大学（東京工業大学）とに分けることで、妥当で効果的な調査研究を実施する。

## （1）評価結果

総合評価	計画達成度	取組	取組の成果	実施体制
A	a	s	s	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

## （2）評価コメント

女性研究者の活躍促進に継続して取り組んできた代表機関（総合大学）と共同実施機関（理工系大学）が連携し、日本の女性研究者の活躍促進を阻む課題を明確にし、その解決策を探るため、海外の総合大学、理工系単科大学、公的研究機関を対象とし、「女性活躍指標」と「女性教員比率」を2次元プロットする独自の手法を用いた定量調査とインタビュー調査による定性調査を実施し、部局における女性研究者の活躍促進状況、女性を取り巻く人事/職場環境を評価した。体系的かつ精緻な調査結果がまとめられ、その分析も学術的に行われており、両大学はもとより日本国内の研究・教育機関の女性研究者の活躍促進を図る上で有益な知見が得られたことは評価できる。学術面での成果発表として、国際学術誌に本事業の成果を取りまとめた論文を投稿しており、論文が受理された後は、大学ホームページ等を活用した積極的な情報発信により、本事業の成果を広く国内の研究・教育機関へ普及させ、波及効果をもたらすことを期待する。

- ・**計画達成度**：代表機関及び共同実施機関それぞれが、国や地域における個人情報保護制度の差異による障壁に対処しつつ、当初調査対象として定めた海外の大学・研究機関の調査を計画通り実施したことは評価できる。また、定量調査と定性調査の両方を所期の計画通り実施しており評価できる。
- ・**取組**：調査対象機関について、「女性活躍指標」と「女性教員比率」を2次元プロットする独自の定量データ分析とインタビュー調査による定量データ分析結果の妥当性の検証により、部局

における女性研究者の活躍促進状況、女性を取り巻く人事/職場環境の評価を効果的に実施したことは高く評価できる。また、日本の女性研究者の活躍促進を阻む課題を解決する上で参考となる海外の Good Practice の収集を精力的に行ったことは高く評価できる。

- **取組の成果**：海外の総合大学、理工系単科大学、公的研究機関を対象に行った調査から得られたデータを体系的に分析し、日本の女性研究者の活躍促進を阻む課題を示唆し、解決法として「女性研究者への適切な環境の提供」、「全学的人事制度の構築」を挙げ、関連する Good Practice を例示したことは高く評価できる。今後は、積極的な情報発信による成果の可視化を進め、広く国内の研究・教育機関へ波及効果をもたらすことを期待する。
- **実施体制**：代表機関、共同実施機関共に学長のリーダーシップの下、「男女共同参画推進室」や「ダイバーシティ推進室」に専任教員を置き、STEMM 分野の教員がプロジェクトを主導することで、定量調査データの分析を適切に行ったことは評価できる。また、代表機関と共同実施機関の役割分担が明確であり、連携が密接であったことは評価できる。